

# 滋賀の教育の目指すべきもの

## ～本県が目指すべき最上位の目的はなにか～

### 教育委員会事務局内での議論

- ・情報過多とも言える社会で、夢や目標を持って生きることが、幸せを追求するために必要である。
- ・予測不可能な社会で、よりよく柔軟に生きるため、主体的に考え、多様な人と協働し、課題を解決する、生きる力の育成が必要である。
- ・子ども同士の協働によりお互いを高めあう、教員同士の協働により効率的な教育を行う等のつながりの仕組みが必要である。
- ・障害のある子どもはもとより、障害のない子どもにとっても多様な学びの場が必要である。
- ・文章を読む力だけではない、情報を読み解く力を含めた読解力の向上が、生きる力として重要である。
- ・就学前教育を充実する必要がある。
- ・就学前から高等教育までを含めた20年教育について、学びをつなぐ議論を深めていく必要がある。
- ・人生100年、長寿化への対応が必要である。
- ・モノづくり人材の育成を図るため、産業界と連携したキャリア教育の充実が必要である。
- ・学校と家庭・地域・社会のつながり、教育と福祉のつながりについて議論を深める必要がある。

- ・教育の大きな方向性が短期間で変わることは考えにくいことから、次期教育大綱の目指すべきところに大きな変更をする場合は十分な議論が必要である。
- ・目的を議論するにあたっては「学ぶ力」を含めた「生きる力」の議論は不可欠である。
- ・次期大綱では、生涯学習の要素を増やしていく必要がある。等

### 総合教育会議での議論

- ・子どもたちの多様な個性を社会全体で育む
- ・県として重点的に取り組むことの明確化
- ・生涯を通して学び続ける視点
- ・福祉との連携
- ・「多様な個性」だけではなく、多様な子どもたちの力も育んでいく必要がある 等

### 滋賀の教育の目指すべきもの（たたき）

#### 目的

- ・子どもたち一人ひとりの「夢と生きる力」の育成
- ・様々な状況の変化に柔軟に対応して生きる力の育成
- ・自ら考え課題を解決する力の育成
- ・多様な人と協働できる人づくり

#### 取り組むべきこと

- ・子どもたちの多様な個性を社会全体で育む
- ・情報を読み解く力（読解力）の向上
- ・20年教育の推進
- ・子どもから大人まで学び続ける生涯学習の推進
- ・福祉、産業との連携
- ・人口減少・社会構造等の変化に対応する教育環境の整備

### 県議会での質問に対する答弁

- ・生きる力の一つである「確かな学力」の基盤となる学習意欲や学習習慣などの「学ぶ力」を育むことが大切である。
- ・学校現場の働き方改革は教育の質を高め、子どもたちの「夢と生きる力」を育むことにつながることである。
- ・自分の考えを適切な根拠をもとに述べることなどに課題がある。
- ・障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに即した対応が求められている。
- ・一人ひとりの生徒が生き生きとした学校生活を過ごし、「この学校を選んでよかった」と思えるような魅力ある学校にしていくこと、また、その魅力を中学生やその保護者に向かってしっかり発信していくことが大切である。等